

## <学術講演タイムスケジュール>

### 開会の辞

10:55~11:00

### 特別講演

11:00~12:00

座長：岸 幹二（岡山大学）

「放射線診療の今後」

金澤 右 先生

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腫瘍制御学講座

放射線医学分野教授

### 教育講演（ランチョンセミナー）

12:15~13:15

座長：浅海淳一（岡山大学）

「放射線検査におけるリスクマネジメント」

藤木 邦雄 先生

第一製薬株式会社 営業推進部 造影剤担当

（日本医師会医療安全推進者養成講座終了者）

### 一般口演

13:30~14:15 Session (特)：唾液腺疾患

14:15~14:51 Session (監)：診断1

14:51~15:10 休憩

15:10~15:55 Session (企)：コンピュータ応用・画像情報

15:55~16:31 Session (協)：診断2

16:31~16:50 休憩

16:50~17:26 Session (労)：診断3

### 閉会の辞

17:30~17:35

学会終了後、18:00より4階烏城の間にて懇親会を行います。

## <特別講演>

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腫瘍制御学講座

放射線医学分野 教授

金澤 右 先生

Professor Susumu Kanazawa

## <特別講演要旨>

11:00~12:00

座長：岸 幹二（岡山大学）

「放射線診療の今後」

金澤 右 先生

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腫瘍制御学講座

放射線医学分野教授

放射線診療は、現代医療の中で、最も急速に、さらに根本的な変革がなされてきた分野といえる。新たなモダリティの開発による様々な画像による総合画像診断が提唱されたのに続き、すべての画像のデジタル化が始まり、それらは、画像の院内システム化 (PACS, RIS, HIS) さらに遠隔画像診断へと結びついてきた。これらは、医療におけるITの確立、進歩と緊密に連動している。また、画像は診断に用いられるだけでなく、近年は治療への応用も盛んに行われるようになった。放射線治療計画は、高度な画像を基礎になされるようになり、その技術は定位照射を可能にした。また、画像でガイドして行う低浸襲治療である interventional radiology (IVR) という新たな分野も出現し、従来外科的手術で行われてきた治療に代替する大きな可能性を有している。

画像診断においては、多列高速 CT が、核医学診療においては、FDG-PET (PET-CT)が、放射線治療においては様々な定位照射が、そして IVR においては、画像ガイドの腫瘍の焼灼治療 (ablation) が現在のエポックメイキングと考えられるが、これらの高度な放射線診療を支え、発展していくためには、適正な専門分化と専門医としての基本教育、適正な施設と人員の配置が今後求められてくることは間違いない。専門医教育については、卒後臨床研修必須化の中で、評価に耐えうるような教育ガイドラインが日本医学放射線学会より近日中に出される予定である。一方、放射線診療における適正な施設と人員配置については、今まで大きな問題があったと考えられる。それは、わが国においては、個々の診療施設が、刹那的な需要から高額な放射線機器を納入して、その際に大学などに人員派遣を要請するという形式が部分的とはいえ慣用化していたことである。そこに示されていたのは、主として個々の診療施設の利潤追求としての放射線診療であり、それに追従した動きをしていたのが大学医局であったのかもしれない。放射線診療の専門家が地域の放射線診療のあるべき姿を描いて、それらを地域自治体、医師会、医療機関、住民などと検証していくような姿勢はまれであったと考えられる。今後、地域に貢献し、体質の強い放射線診療をしていくためには、放射線診療に携わるものの意識が、単なる需要と供給の上に成り立つのではなく、地域のあるべき姿に則った放射線診療の姿でなくてはならないだろう。特に、人材を養成する地域中核大学においては、専門家としての優秀な技能者を育成するだけではなく、有効な人材の地域貢献を真剣に考えるべきである。私たちは、学外に地元財界の支援を得て「岡山画像診断センター」を設立中だが、その成立過程の中では、当初考えられていた国立大学病院の財源的限界の解決策だけではなく、地域（それは、住民、自治体、財界、医師会など様々な成分を含む）と大学の放射線診療の交流が極めて大事であることが確認された。放射線診療の今後を考えるには、広い視野に立った上での私たち自身の計画性が今求められていると思う。

## 教育講演（ランチョンセミナー）

12:15～13:15

座長：浅海淳一（岡山大学）

「放射線検査におけるリスクマネジメント」

藤木 邦雄 先生

第一製薬株式会社 営業推進部 造影剤担当

（日本医師会医療安全推進者養成講座終了者）

### <教育講演要旨>

リスクマネジメントの前提条件がコミュニケーションに在る事は古来よりの真理ですが、医療におけるそれを実施するに当たり、必要であると思われる事項に関しまして、お話をさせていただきます。

放射線検査において使用頻度の高い造影剤の、副作用の種類・発生頻度・発生メカニズム、患者様側から見た危険因子。それらの予知・予防・回避という視点から最も重要な添付文書に関しまして、実例を交えて情報提供させていただきます。また、検査であっても（だからこそ）医的侵襲を伴う点でインフォームド・コンセントは不可欠ですが、それらの関連訴訟と、造影剤使用時のインフォームド・コンセントの意義に関しまして、情報提供させていただきます。

## <学術講演プログラム>

### 一般口演 会場：4階鶴鳴の間

Session (特)：唾液腺疾患

13:30~14:15 座長：角 忠輝 (長崎大学)

#### 1. 「唾液腺腫瘍のADCマッピング」

○榮田 智、角 美佐、佛坂由可、中村 卓

長崎大学 大学院 頭頸部放射線学分野

拡散強調像によるADCマッピングを使って唾液腺腫瘍の組織学的構成を予測する。

#### 2. 「唾石形成を伴わない耳下腺唾仙痛症例に対する導管洗浄療法」

○泉 雅浩、有地淑子、後藤真一、内藤宗孝、有地榮一郎

愛知学院大学 歯学部 歯科放射線学講座

唾石形成が認められず、治療に苦慮した患者6名に対し導管洗浄療法を施行し、良好な治療結果が得られたので、その画像所見と治療成績を報告する。

#### 3. 「口腔乾燥症の超音波像の定量解析」

○筑井 徹、岡村和俊、徳森謙二、清水真弓、吉浦一紀

九州大学 歯学研究院 口腔画像情報科学教室

唾液腺の超音波所見のスコアリングがSJSの診断に有効であるとされている。

本発表では、超音波像を定量化し、SJSと他のsicca-groupとの鑑別、Sialographyのstageの相関、唾液流量の相関を検討した。

#### 4. 「閉塞性耳下腺炎の画像所見と臨床所見についての考察」

○河津俊幸 1、中山英二 2、清水真弓 2、吉浦一紀 2

1 九州大学病院 口腔画像診断科

2 九州大学大学院 歯学研究院 口腔画像情報科学教室

閉塞性耳下腺炎における病変部の画像所見(狭窄部位や狭窄程度等)や腺体の画像所見を臨床所見(経過や唾液の流出状況)と対比させながら考察した。

#### 5. 「シェーグレン症候群における唾液腺造影negative症例の超音波像の検討」

○清水真弓、岡村和俊、吉浦一紀

九州大学大学院 歯学研究院 口腔画像情報科学教室

シェーグレン症候群における唾液腺造影negative症例の超音波像所見と病理組織学的所見、血清学的所見の対比を行い、超音波像が初期変化を捉えうるかを検討した。

Session (監)：診断1

14:15~14:51 座長：香川豊宏 (福岡歯科大学)

#### 6. 「超音波像による口腔癌頸部リンパ節転移と非転移の定量的鑑別法」

○三輪邦弘 1、香川豊宏 1、山崎美和子 1、岡村和彦 2、湯浅賢治 1

1 福岡歯科大学 画像診断学分野

2 福岡歯科大学 病態構造学分野

複雑度を応用した数値(MCV)を利用して口腔癌における頸部腫脹リンパ節

超音波像の内部性状評価を行った結果、MCVは口腔癌における頸部腫脹リンパ節の転移と非転移に有用な鑑別手段であると考えられた。

7. 「当科における頭頸部癌に対する放射線治療の成績」

○秋山広徳、中谷温紀、玉木順子、蒲生祥子、内山百夏、村上秀明、  
古川惣平

大阪大学大学院 歯学研究科 歯科放射線学教室

1989年から現在まで460例の頭頸部癌患者の放射線治療を施行した。そのうち照射後3年以上を経過した1次症例患者210名に対する検討を行ったので報告する。

8. 「頬部にみられた小細胞癌の画像所見」

○濱平須美子<sup>1</sup>、川畑義裕<sup>1</sup>、犬童寛子<sup>1</sup>、河野一典<sup>1</sup>、末永重明<sup>1</sup>、佐藤強志<sup>1</sup>、  
西原一秀<sup>2</sup>、野添悦郎<sup>2</sup>、中村典史<sup>2</sup>、仙波伊知郎<sup>3</sup>、馬嶋秀行<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 鹿児島大学鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面放射線

<sup>2</sup> 鹿児島大学鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学

<sup>3</sup> 鹿児島大学鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔病理解析学

MR、CT画像では辺縁が比較的平滑で良性腫瘍を思わせたが、PET画像では強い集積を示した興味深い頬部小細胞癌の1例を報告する。

9. 「舌癌患者治療後の口腔環境の変化について

—オルソパントモグラムによる分析—

○林 靖久、筒井 滋、四井資隆、板垣恵輔、川崎靖典、古跡孝和、  
清水谷公成

大阪歯科大学 歯科放射線

パノラマX線写真で長期経過観察している舌癌患者を対象として、多角的なスコアリングシステムで比較検討を行った。

14:51 ~ 15:10 休憩

Session (企): コンピュータ応用・画像情報

15:10~15:55

座長: 村上秀明 (大阪大学)

10. 「PC MR アンジオグラフィーによる高速撮像法」

○角 忠輝、角 美佐、山田敏朗、中村 卓

長崎大学 大学院 頭頸部放射線学分野

従来PC法は撮像時間が長く、体動等で顎顔面・頸部の血管描出が困難であったが、高速撮像法 (SENSE) を併用することで、TOF法を凌ぐ頭頸部領域の血管撮像法として蘇った。

11. 「イメージ増倍管およびフラットパネル検出器型歯科用小照射野コーンビーム

CTの画像濃度プロファイル特性」

○蛭川亜紀子<sup>1</sup>、勝又明敏<sup>2</sup>、奥村信次<sup>1</sup>、松尾綾江<sup>1</sup>、横井みどり<sup>1</sup>、

後藤賢一 1、内藤宗孝 3、鈴木正和 4、有地榮一郎 3

1 愛知学院大学 歯学部附属病院 放射線部

2 朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座 歯科放射線学分野

3 愛知学院大学 歯学部 歯科放射線学講座

4 株式会社モリタ製作所

フラットパネルを検出器とした小照射野コーンビーム CT は、画像濃度プロフィール特性に優れることが示された。

12. 「歯科用コーンビーム CT の被ばく線量測定」

○後藤賢一、奥村信次、松尾綾江、蛭川亜紀子、横井みどり

愛知学院大学 歯学部附属病院 放射線部

歯科用 CT の被ばく線量の具体的数値の報告はまだ少ない。そこで、全身用 CT で一般的に用いられている CT DI w により歯科用 CT の被ばく線量を評価した。

13. 「口内法 X 線撮影への One Shot Dual Energy 法の応用」

○古川美喜子 1、泉 雅浩 2、菱川敏光 1、野口俊英 1、有地榮一郎 2

1 愛知学院大学 歯学部 歯科保存学第三講座

2 愛知学院大学 歯学部 歯科放射線学講座

口内法撮影に One Shot Dual Energy 法を応用してアルミ当量画像の算出プログラムをパーソナルコンピュータ上で作成した。

14. 「下顎骨の計測における CT・パノラマ撮影の精度について」

○玉木順子、Jira Chindasombatjaroen、蒲生祥子、村上秀明、古川惣平

大阪大学大学院 歯学研究科 歯科放射線学教室

下顎骨の 9 個所の距離を画像上で計測した時、CT ではスライス面の画像はほぼ実測値と等しく多断面構築画像での精度も劣らないが、パノラマでの精度はやや劣る。

Session (協) : 診断 2

15 : 55 ~ 16 : 31

座長 : 泉 雅浩 (愛知学院大学)

15. 「単純性骨嚢胞 (Simple bone cyst) - 顎骨の病変と他骨の病変 -」

○末井良和 1、長崎信一 2、李 薫 1、田口 明 1、藤田 實 2、谷本啓二 2

1 広島大学病院 口腔再建外科 (歯科放射線科)

2 広島大学大学院 医歯薬学総合研究科

病態情報医科学講座 (歯科放射線学)

顎骨単純性骨嚢胞の病態について、他骨病変との相違点を中心に再検討。

成書や論文中の記述にある問題点を明らかにする。

16. 「下顎骨舌側正中部に広範な骨欠損を認めた一症例」

○富田世紀、中村俊英、玉木順子、笹井正思、村上秀明、古川惣平

大阪大学大学院 歯学研究科 歯科放射線学教室

骨破壊や骨吸収などを伴う明らかな腫瘍性病変を認めないにもかかわらず、

下顎骨舌側の正中部に大きな骨欠損域が存在する非常に稀な症例の報告をする。

17. 「歯槽頂部に発生した歯原性線維腫」

○勝又明敏 1、永山元彦 2、坂野美栄 2、高井良招 3、池田昌弘 3、藤下昌己 1

1 朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座 歯科放射線学分野

2 朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座 口腔病理学分野

3 朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座 口腔外科学分野

埋伏した下顎犬歯の歯冠を含む歯槽頂部のX線不透過性病巣が発見された。

病理組織所見より歯原性線維腫が考えられた。

18. 「80歳高齢者における茎状突起石灰化の臨床的意義」

○岡部幸子、森本泰宏、田中達朗、鬼頭慎司、大庭 健

九州歯科大学 口腔診断学講座 画像診断学分野

80歳における茎状突起石灰化の長さとは各種データに関する関連性は、血清コレ

ステロール値 (Pearson  $r=0.337$ 、 $P<0.001$ ) と骨密度 (Pearson  $r=0.365$ 、 $P<0.001$ )

に関連性を示した。

16:31~ 16:50 休憩

Session (傍): 診断3

16:50~17:26

座長: 筑井 徹 (九州大学)

19. 「X線撮影時における自閉症児(者)への視覚支援の試み」

○李 薫 1、板垣純子 2、寶田 貫 3、谷本啓二 4

1 広島大学病院 口腔再建外科 (歯科放射線科)

2 広島大学病院 看護部

3 広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態制御医科学講座 (歯科麻酔学)

4 広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態情報医科学講座 (歯科放射線学)

デンタル、パノラマX線写真撮影の際、自閉症児(者)への視覚支援を試みたところ、身体抑制や開口器の使用は不要であり、視覚支援の有用性が確認されたので報告する。

20. 「インフォームドコンセント支援用放射線科ナビゲーションツールの開発 (第一報)」

○市原隆洋 1、木原由香 1、島津奈緒 1、香川豊宏 2、湯浅賢治 2

1 福岡歯科大学 医科歯科総合病院 放射線室

2 福岡歯科大学 画像診断学分野

画像検査についてのインフォームドコンセント支援用ナビゲーションツールを開発するにあたって、患者アンケート調査を行ったので報告する。

21. 「当大学で使用しているOSCE専用タイマーの現状と問題点」

○香川豊宏、小川和久、和田忠子、湯浅賢治

福岡歯科大学 画像診断学分野

当科で開発したOSCE専用のタイマーの概要を供覧し、有用性、問題点を報告する。

22. 「Learning Management System を用いた歯科放射線学実習

－バーチャルフィルムマウント実習－」

○小川和久、香川豊宏、湯浅賢治、和田忠子

福岡歯科大学 画像診断学分野

PC 上で行うバーチャルフィルムマウント実習のコンテンツを作成。

実習後に、学生へのアンケートを行った。

17：30～17：35 閉会の辞

学会終了後、18：00 より 4 階烏城の間にて懇親会を行います。